

たい焼きとたい焼き

第2巻第10章

新約聖書と旧約聖書の類似点



まず最初にアダムに示された小さな花(創世3:15)が少しずつ大きくなって(エゼキエル37:1-14;詩26:19-21,66:22-24;ダニエル12:1,2)最後には義の太陽であるキリストが現れ全世界を完全に照らして下さるのです(マラキ4章)。このように旧約聖書の核心もキリストと彼に内にある永遠の命の祝福を教えています。今、私たちが約束されている天国はアブラハムとイサクとヤコブに与えられた天国と同じなのです(マタイ8:11)。

店先に並べられているたい焼きのかたちはみな同じです。それは同じ金属の型にメリケン粉を流し込んで作っているからです。旧約聖書と新約聖書の関係もこのたい焼きと同じであるとたえることができるかもしれません。この二つの聖書は全く同じことを教えています。ところが聖書に対しての代表的な誤解の一つはこの点を無視することから起こります。旧約聖書と新約聖書は互いに大変違った内容を記していると主張するのです。

「新約聖書さえあれば旧約聖書はもはや必要はない」と主張する人がいます。旧約聖書は地上的で現世的な祝福だけを約束し、新約聖書は霊的で天上の祝福を約束していると言った誤解をしているからです。また、旧約聖書は律法による義を教え、新約聖書はキリストを信じる信仰によって義とされると教えていると錯覚して理解するのです。さらに旧約はイスラエルの民だけに与えられた約束であり、新約は教会にだけ与えられたものだと言って騒ぎ立てる人も存在します。しかし、このような誤解は聖書を正しく読む目をもたないところから生まれるものだと言えるのです。

第1節 旧約聖書も新約聖書もすべて同じ契約である

あの有名な不逞の輩セルベトスと再洗礼派の一部の人々は豚の群れのようなイスラエルの民に神は天的な永遠の命の希望を与えることがなかったと語ります。イスラエルにはただ地上的な祝福、つまり食べることに困らずに毎日を送ることができるような約束をされ、それを実現するようにされたと言うのです。セルベトスは律法が与える信仰はもちろん罪の許しに至るまですべて

地上的、そして肉的なものであると主張しました。しかし、神が族長たちと結ばれた旧約約束と私たちと結ばれている新しい約束は全く同じものなのです。どこかが似ているというのではなく、全く同じものなのです。ただ二つの聖書はその約束を示す形が違っているだけにすぎないのです。

ですから私たちはこの新約と旧約聖書の関係で次の三つの事実を常に記憶すべきです。第一に神がユダヤ人に与えられた約束も地上的で肉的な繁栄と幸福だけを与えようとしているのではなく、霊的な繁栄、永遠の命の希望を与えているのです。第二にイスラエルを神に結びつけた約束は彼ら自身の努力や義さから出ているのではなく、ただ神の愛によっているということです。

第三に、旧約の民たちも唯一なる仲保者キリストを知っており、ただキリストを通してだけ神の前に立つことができ、その神の約束にあずかることができると信じていたということです。ですから、旧約と新約はその約束の内容も、その根拠も同じであり、その約束にあずかることができる方法も同じなのです。

使徒たちの証言を見ると上の三つの事実がさらに明らかになります。福音は天上的であり、霊的なもので（使徒 13:26；ローマ 1:16；マタイ 3:2；コロサイ 1:4,5；テサロニケ二 2:14）、旧約聖書もその福音を証言しているのです（ローマ 1:2, 3:21,22）。アブラハムがキリストに希望を置いたように（ヨハネ 8:56）、旧約聖書の約束もいつもキリストと永遠の命に向けられています（マリアとザカリアの賛歌、ルカ 1:54,55,72,73）。ですから神は旧約聖書と新約聖書の民に同じ恵みを与えているだけでなく、その恵みを表す方法でも同じ象徴（約束のしるし）を用いているのです。

例をあげれば聖餐式がそれです。私たちは聖餐式という象徴を通して神の霊的な恵みにあずかることができます。そうだとすると旧約聖書の民にはそのような機会が全くなかったか、あっても非常にまれではなかったかと考え人がいます。しかし、実は旧約の民もみな同じ食物をたべ、同じ飲物を飲んでいたのでした。

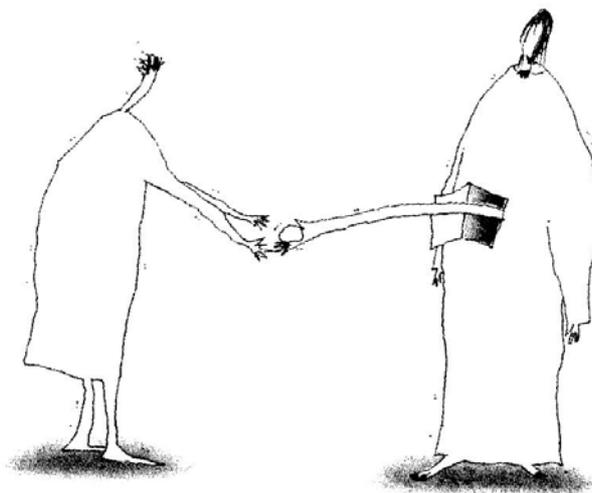
ですから使徒は旧約聖書に登場する象徴を上げて私たちの聖餐式に対する警告と教えを伝えることにそれを用いています。それらは霊的なものであると語り、それらがキリストから来たものであると説明しているのです（コリント第一 10:1-6,11,14-17）。つまり旧約の民たちも私たちと全く同じ永遠の命の約束を受けて、その約束を霊的な聖礼典にあずかることで保証されていたのです（アウグスチヌス「マニ教徒論駁」）。

第2節 旧約の族長たちが示している証言

昔の族長たちが受けた約束は現世的であり、肉的なものに見えますが、実はそれらは霊的であり内的な性格を強くもっています。「わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる」（出エジ 6:7；レビ記 26:12）という御言葉は族長たちが受けた契約の代表的な表現ですが、この約束はただ肉的な恵みだけではなく、永遠の命に対する明らかな約束を含んでいるのです。そして、族長たちは神が自分たちに約束してくださったものをそのまま受けることができたことを、後になって神とイエスが証言してくださっているのです（出エジ 3:6；マタイ 22:23-32、ルカ 20:27-38）。

このように神の契約が象徴的であり、霊的であるという事実は私たちにはたいへん重要です。なぜでしょう。神は私たち信者たちの人生をその契約を根拠にして取り扱ってくださるからです。

そのようなことを教えている御言葉をあなたは思い出せませんか。神は私たちが地上的に、また現世的な人生では絶対に満足しないように、徹底して鍛錬されるという御言葉です。そして私たちをさらにすばらし祝福へ導き、さらにすばらしい命を得ることができるようになるというのです。



アダムの家庭にあった悲劇を見てください。そして長い歳月が経ったあとで、神が箱舟を作らせ、恐ろしい洪水の審判か

ら避けさせたノアの人生（創世 9:24,25）はどうだったでしょうか。信仰の祖先と呼ばれるアブラハムを見てください。神との契約において、彼はとても重要な役目を持っていました（創世 12:3）。しかし、彼が約束の地カナンで受けたものはどのようなものだったでしょうか。生涯放浪生活をした上で、彼はさまざまな苦勞をしなければなりません（創世 12:11 以下、20:1 以下）。

親類口のために抱え込まなければならなかった苦しみ（創世 13:5-9,14:14-16）、泥沼のような家庭の不和（創世 16:5,21:9 以下）、そして愛する子を捧げなければならなかった試練（創世 22:1 以下）など、彼はこれらのたくさんの苦難から守られてよいはずの価値を持つ人物でした。しかし、その苦難の数々を通じてアブラハムが仰ぎ見、待ち望んでいたのは更にすばらしい約束だったのです。「ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです」（ヘブライ 11:16）。アブラハムとすべての族長たちはキリストのときを仰ぎ見て喜び、すべての苦難を乗り越えることができたのです（ヨハネ 8:56）。

ヤコブの場合も同様です。彼は自分の生涯を次のような一言で言い表しています。「わたしのよわいの日はわずかで、ふしあわせで（した）」（創世 47:9）。ヤコブの悲劇的な人生はひとつひとつ説明する必要がないほどに有名です。彼は不幸を抱え続けた人の見本となりました。どうすることもできない理由で家出をし、おじのラバンの家でひどい目にあって生きなければならなかった20年あまりの歳月、四人の妻と子どもたちのうんざりするような争い、兄エサウに命を狙われる危険、ヨセフを巡って起こった息子たちの背反、父親のそばめと関係を持った息子ルベンの犯した罪（創世 35:22）、ユダがタマルとの間で犯した失敗（創世 38:18）、ベニヤミンを失うことへの恐怖（創世 42:34,38）ヤコブは洪水のように襲ってくる苦難の連続の中で一生を送り、地上ではひと時も平和な暮らしを味わうことができませんでした。しかし、そのようなヤコブが「主よ、わたしはあなたの救を待ち望む」という言葉で自分の死を迎えています（創世 49:18）。死こそが新たな、そしてさらにすばらしい出発であることを彼が信じていたからです（詩 116:15,34:21）。このようにヤコブはこの地上では自分は旅人だと感じ、生涯をさらによき場所をもとめて歩み続け、約束通りに神が準備して下さった永遠の命と言う賞金を受けることができたのです（ヘブライ 11:9,10,13-16）。このような族長たちが受けた約束はもちろん地上的で現世的な祝福も含ん

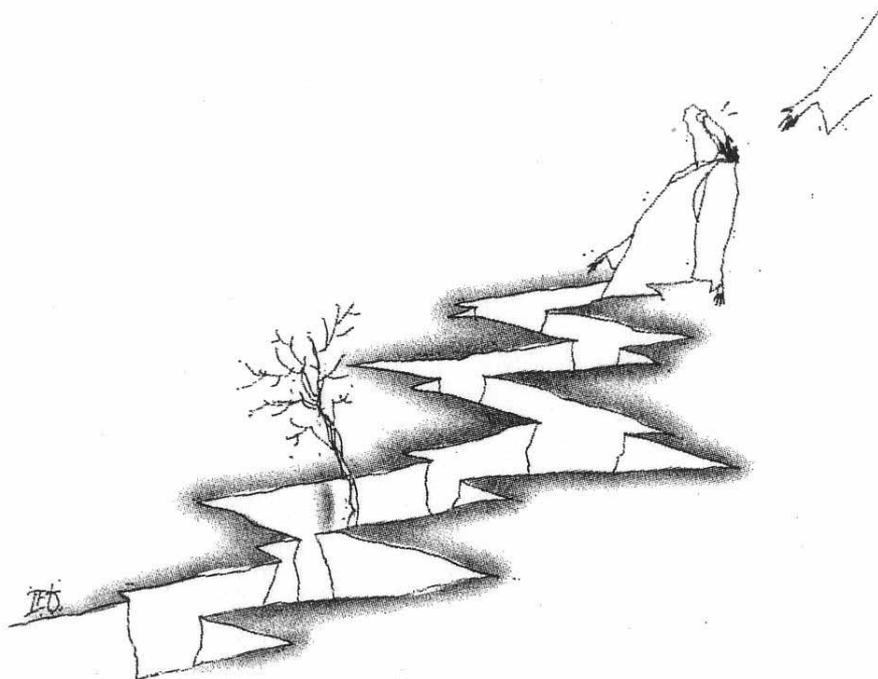
ではいましたが、本来天的で靈的なものだったのです。

第3節 ダビデやヨブが示す証言

ダビデの預言のうちでもこのような証言はあきらかとなります。もちろん彼の後輩の預言者たちの証言よりは明確さに欠けるところがありますが、ダビデの預言も神の約束が何であるかを正確に私たちに示しているのです。やはり、それは現世的というよりは天的であり、肉적であるよりは靈的なものでした。彼の地上での生涯も決して完全なものでありませんでした。彼は信仰によって生きる人々は自分の幸福を確かに他の人々とは違ったところで見出す必要があると考えていたのです（詩 39:5,6,12;詩 102:25-28;参照、詩 51:6）。ある時期、ダビデもこの地上で悪人たちが繁栄し、義しい人たちが苦難をうけることで悩み続けたと告白していますが、彼のこの悩みは彼が神の聖所に入ることができたときに解決されたと歌われています（詩 73:2,3,16,17）。

ダビデが語ったことはどういうことでしょうか？神がご自身の民に約束されたものはこの地上ではほとんど実現されることがないということです。ですから聖徒たちは自分の心を神の聖所に向け、天に準備されている恵みを仰ぎみなければならないと言うのです。そして、今はそれを目で見て確かめることは出来ませんが、信仰によって理解し、満足するのです（詩 17:15,92:5-7,12-14）。そのため知恵ある者は現世の幸福というものが一時的ではかないものであることを知っています。そしてこの世の出来事に執着して、縛られることがないのです。なぜなら彼らはそれよりももっとすばらしい祝福を求めることを知っているからです（詩 49:6-14;詩 54:7,8）。

苦難の代表選手ともいえるヨブの場合も同じです。彼は次のような驚くべき言葉を語っています。「わたしは知る、/わたしをあがなう者は生きておられる、/後の日に彼は必ず地の上に立た



れる。…わたしの心はこれを望んでこがれる」(ヨブ記 19:25-27)。ヨブは自分の希望が地上で獲得できるものではないために、その苦難の中で仲保者キリストと未来の永遠の命の世界を期待することができたのです。

もしかしたら苦難の後にヨブが受けた二倍の祝福をうらやましいと思っはいませんか？しかし本当に苦難の後に子どもたちを倍も受けることができるならば、今、養っている子どもたちを失ってもいいとあなたは思うでしょうか。ヨブが受け取ることができた本当の祝福は神ご自身であり、彼が得た約束は天的であり、靈的なものでした(ヨブ記 42:5,17)。

後代の預言者たちになるとキリストと永遠の命に対する啓示の光はさらに輝きを増していきます。まず最初にアダムに示された小さな花(創世 3:15)が少しずつ大きくなって(エゼキエル 37:1-14;詩 26:19-21,66:22-24;ダニエル 12:1,2)最後には義の太陽であるキリストが現れ全世界を完全に照らして下さるのです(マラキ 4章)。このように旧約聖書の核心もキリストと彼の内にある永遠の命の祝福を教えています。今、私たちが約束されている天国はアブラハムとイサクとヤコブに与えられた天国と同じなのです(マタイ 8:11)。

イエスも復活されたとき、旧約のもとにあったたくさんの聖徒たちをその復活に共にあずからせました(マタイ 27:52,53)。それは新約と旧約の聖徒たちがみな同じ約束、同じ靈(使徒 15:8-11)を受けたという事実を証明しているのです。ですから、今、ユダヤ民族が律法に頼ってメシアの地上的王国を待ち望んでいるのは自分たちの顔に覆いがかけられたままで旧約聖書を読んでいるためです。しかしキリストはその覆いを取り除くために私たちのところに来てくださったのです(コリント第二 3:13-15)。

要約すると

旧約聖書と新約聖書は同じ型から作られたたい焼きのようなものです。二つは同じ約束を記しています。地上的で現世的、肉的な約束を語っているように見える旧約の約束も実は、新約聖書のように天的で靈的なものなのです。確かにこの地上でも私たちは神の祝福を受けます。しかし、私たちが約束された真の祝福は天上のものであり、靈的なもの、そして永遠のものなのです。